

製品名: GPR132 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11636**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	42kDa

抗原情報

遺伝子名	GPR132
別名	GPR132; G2A; Probable G-protein coupled receptor 132; G2 accumulation protein
遺伝子 ID	29933.0
SwissProt ID	Q9UNW8
免疫原	抗血清はヒト GPR132 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 311-360

背景

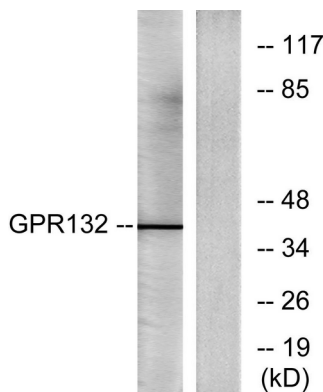
この遺伝子は、グアニンヌクレオチド結合タンパク質（Gタンパク質）共役受容体（GPCR）スーパーファミリーのメンバーをコードしています。これらの受容体は7回膜貫通型のタンパク質であり、細胞外シグナルにตอบสนองして細胞内シグナル伝達経路を活性化しま

す。このタンパク質はリゾホスファチジルコリンの作用に対する受容体であると報告されていましたが、PubMedID: 15653487ではこの知見を撤回し、リゾホスファチジルコリンの作用のエフェクターであると示唆しています。このタンパク質はプロトン感知活性を有し、酸化された遊離脂肪酸の受容体である可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013年7月]、注意:当初は(PubMed:11474113)リゾホスファチジルコリン(LPC)およびスフィンゴシルホスホリコリン(SPC)の受容体であると考えられていましたが、この研究は撤回されました。機能:未知のリガンドの受容体。Gαタンパク質、おそらくGα(q)を活性化します。アポトーシスに関与している可能性があります。G2/Mチェックポイントで機能して有糸分裂を遅らせます。T細胞、B細胞、およびその他の細胞型が増殖を遅らせ、損傷したDNAを修復して適切な複製を確実にするためのメカニズムとして機能する可能性があります。誘導:ストレスおよびDNA損傷因子によって。類似性:Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属します。細胞内局在:内部移行し、エンドソーム区画に蓄積します。LPCはエンドソーム区画から細胞表面への再局在化を引き起こす。組織特異性:マクロファージ、および脾臓や胸腺などのリンパ球に富む造血組織で高発現する。心臓や肺では弱発現する。アテローム性動脈硬化性プラークでは、脂質コア周辺と肩部領域で発現が観察される。、

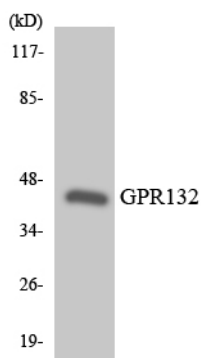
研究分野

シグナル伝達

画像データ



GPR132抗体を用いたJurkat細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



GPR132抗体を使用したHT-29細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。